



地元、聖天様と共に

熊谷市立妻沼小学校

第四十四代校長 板倉 伸夫

「どう木」と呼ばれ、妻沼小のシンボルとなる

明治四四年（一九一〇）妻沼尋常高等小学校と改称

昭和二二年（一九四六）妻沼町立妻沼小学校と改称

昭和三六年（一九六一）現校歌制定

平成一七年（二〇〇五）熊谷市、妻沼町、大里町との合併により、

熊谷市立妻沼小学校と改称

一 本校及び聖天様（聖天山長楽寺歎喜院）の沿革

治承三年（一一七九） 斎藤別当実盛公が、祖先伝来のご本尊聖天

さまをお祀りしたことに創まる

平成一五年（二〇〇三） 聖天山、修復工事開始

平成二四年（二〇一二） 聖天山本殿、埼玉県初の国宝に指定される

寛文一〇年（一六七〇） 大火により、仁王門、中門を残しその他焼失

享保二〇年（一七三五） 妻沼の大工棟梁、林兵庫正清が再建に着手

*校章

明治後期には制定されていたと思われる。

徳川八代將軍吉宗公の「享保の改革」時代、

寺社修復制限の中、寺社自らの「御免勸化」

*校歌

により、資金を集める

作詞の田島善之丞氏 作曲の稲田浩氏共に、地元妻沼の出身である。

宝暦一〇年（一七六〇） 拝殿完成（権現造りと呼ばれる建築様式）

作成依頼の経緯は確認できなかったが、田島氏は文学に、稲田は音

明治六年（一八七三） 妻沼歎喜院仮本堂を校舎に「妻沼学校」創立

楽に才能を発揮していた方と伺っている。

* 明治時代に作られた、校訓「まじめ」「ま

妻沼小学校は、地元、聖天様と共に、地域に溶け込み、愛していただ

め」「まろく」の精神は今も引き継がれる。

きながら、歴史を紡いできました。これからも、聖天様、地元妻沼を愛

明治四三年（一九一〇） 大我井の杜を開墾し校庭にする

し、世界に羽ばたく子どもたちを、校訓「まじめ」「まめ」「まろく」の

その際、一本のケヤキを残す

精神で育んでいきます。

熊谷市立妻沼小学校 校歌

熊谷市立妻沼小学校 校歌

田島 善之丞 作詞
稲田 浩 作曲

♩=108

わ か 草 も ゆ る 大 利 根 の
つ つ み の み ど り う つ る 窓
わ が 学 び 舎 に わ れ ら が 庭 に
清 く 明 る い 光 あり

わ が ま な び や に わ れ ら が に わ に
き よ く あ か かる い の ひ か り り あ り
と お い れ き する の ひ か り り あ り
せ い き あ ふ る こ ろ

熊谷市立妻沼小学校 校歌 (昭和三六年制定)

作詞 田島善之丞

作曲 稲田 浩

- 一、わか草もゆる大利根の
つつみのみどりうつる窓
わが学び舎にわれらが庭に
清く明るい光あり
- 二、朝日にはゆる大我井の
もみじのにしき仰ぐ窓
わが学び舎にわれらが庭に
遠い歴史の香りあり
- 三、正しく強く大空へ
伸びゆく力開く窓
わが学び舎にわれらが庭に
生氣あふるるひびきあり

母校 妻沼小学校